

雄勝地域の

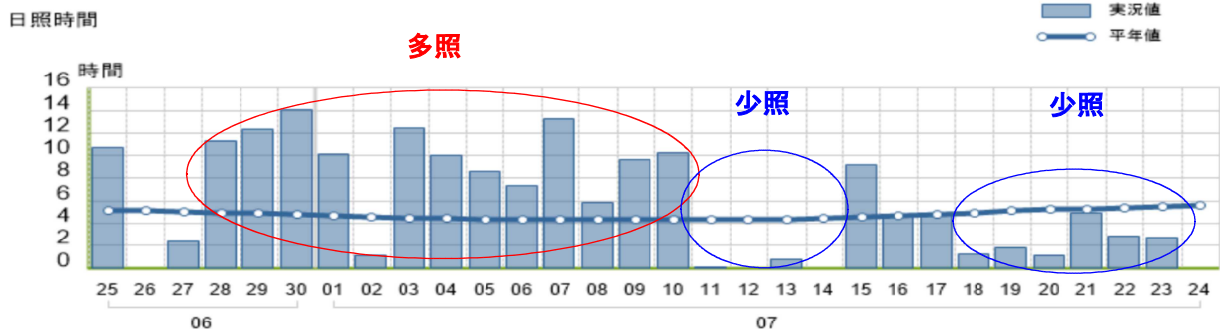
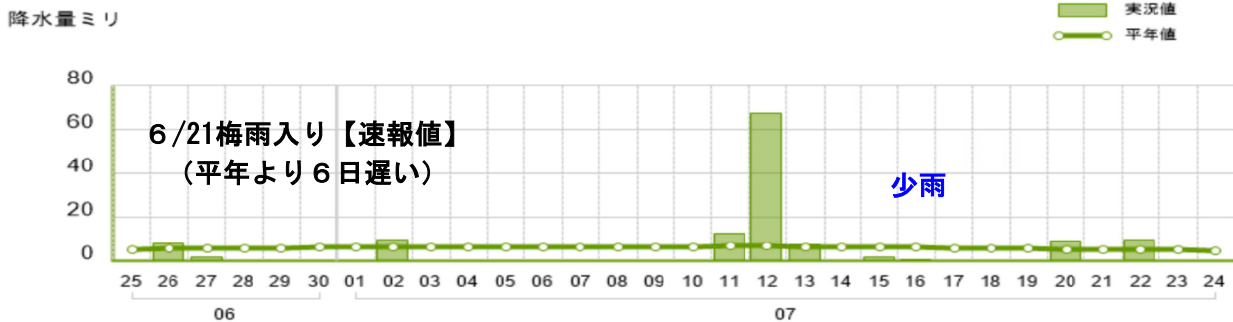
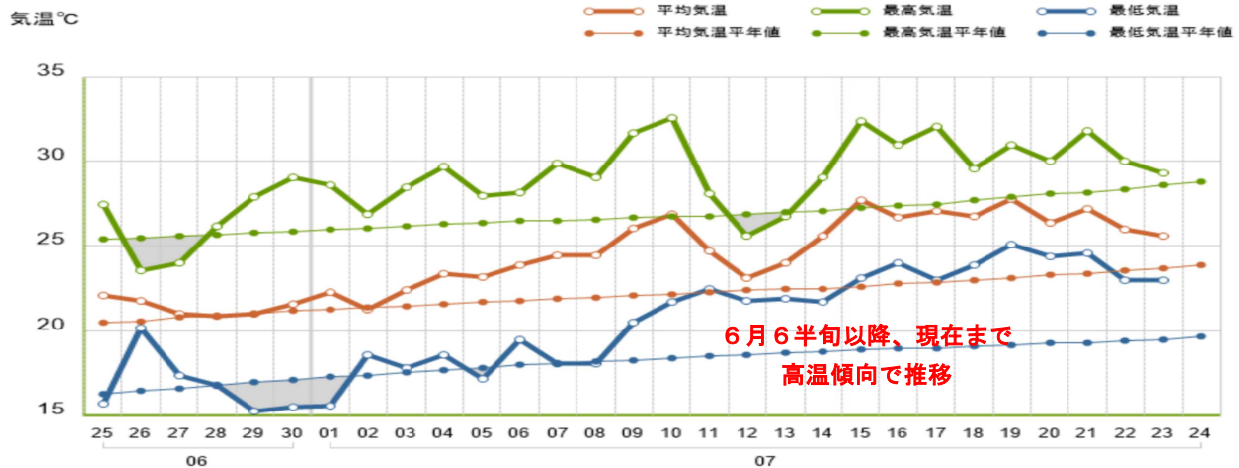
稲作だより

令和8年7月27日発行
雄勝地域振興局農林部
農業振興普及課
TEL 0183-73-5180
FAX 0183-72-6897

出穂期早まる！きめ細やかな水管理で登熟促進を。

～斑点米カメムシ類に注意。雑草管理を徹底しましょう～

【これまでの気象経過】（アメダス湯沢：6月25日～7月23日）



	平均気温（平年差）	積算降水量（平年比）	積算日照時間（平年比）
6月上旬	19.0℃（+1.1℃）	14.0mm（80%）	59.0h（71%）
6月中旬	20.7℃（+1.5℃）	2.5mm（7%）	94.6h（160%）
6月下旬	20.4℃（+0.4℃）	56.0mm（108%）	65.3h（132%）
7月上旬	23.9℃（+2.7℃）	9.5mm（19%）	88.7h（201%）
7月中旬	26.0℃（+3.8℃）	98.5mm（174%）	23.6h（53%）

【生育概況】

7月24日に実施した定点調査結果（あきたこまち8か所）では、草丈81.2cm（平年比104%）、茎数519本/㎡（同比111%）、葉数12.8葉（同差+0.3葉）、葉色（SPAD値）38.4（同比95%）となっています。

平年と比べて草丈はやや長く、茎数は多く、葉色はやや淡く推移しています。草丈は、7月3～5半旬にかけて日照時間の少ない日が続いたことなどから、長くなりました。葉数は平年よりやや多く、ほ場によっては増葉が確認されているところもあります。

多くのほ場で減数分裂期を過ぎており、24日時点で出穂期を迎えているほ場もありました。出穂期は平年（8月2日）より早まると見込まれます。

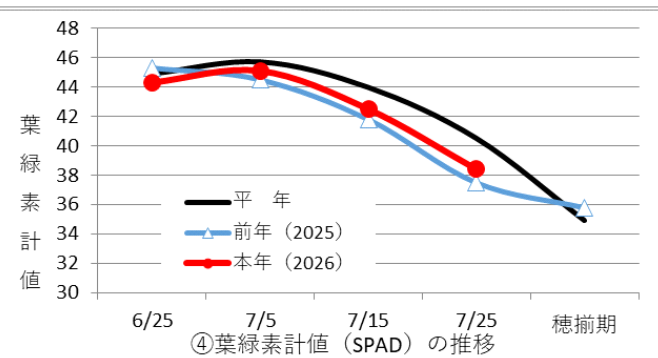
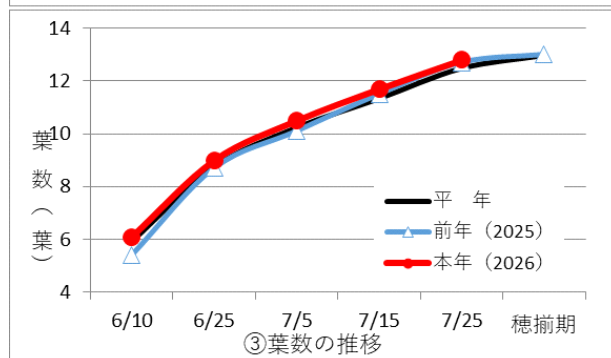
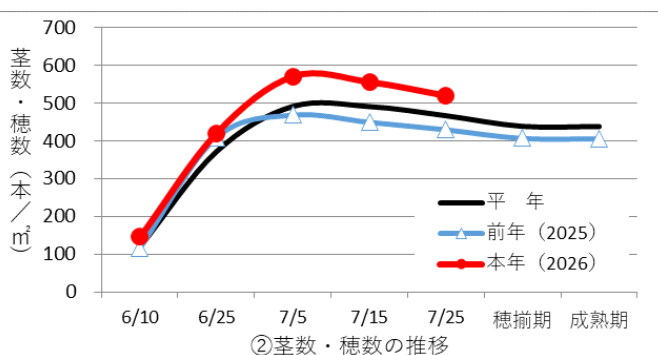
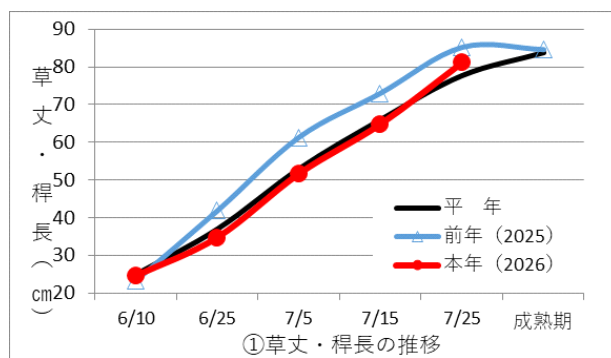
	6月10日調査結果			6月25日調査結果				7月5日調査結果			
	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (葉)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
本年	24.6	145	6.1	34.8	420	9	44.3	51.7	570	10.5	45.1
平年	24.9	117	5.9	37	370	8.8	44.9	53	490	10.2	45.7
平年比	99%	124%	+0.2	94%	114%	+0.2	99%	98%	116%	+0.3	99%
前年	23.2	116	5.4	41.8	409	8.7	45.3	61.3	469	10.1	44.5
前年比	106%	125%	+0.7	83%	103%	+0.3	98%	84%	122%	+0.4	101%

	7月15日調査結果				7月25日調査結果			
	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
本年	64.9	555	11.7	42.5	81.2	519	12.8	38.4
平年	66.1	490	11.3	44	77.8	466	12.5	40.5
平年比	98%	113%	+0.4	97%	104%	111%	+0.3	95%
前年	73	450	11.5	41.8	85.2	430	12.7	37.5
前年比	89%	123%	+0.2	102%	95%	121%	+0.1	102%

水稻定点調査結果（雄勝管内：あきたこまち8か所）

※田植日平均：本年5月23日（平年5月22日、前年5月22日）

※平年値は過去10年間の平年値



【当面の主要な技術対策】

1 今後の水管理について

管内では多くのほ場で出穂期が早まっています。

出穂～登熟初期にかけて、葉色の低下や葉の枯れ上がり、根の機能減退を防止するための水管理に注意しましょう。

○ 出穂まで

幼穂のスムーズな発育と一穂粒数の適正確保には、幼穂形成期以降の土壌水分が適切に保たれていることが重要です。きめ細かな間断かん水を行い、高温時や強風時は、入水して稲体の消耗を防ぎましょう。

○ 出穂期

出穂の時期は、稲が最も水を必要としますので、出穂・開花したら10日間は湛水状態（花水）として、水を切らさないように管理します。

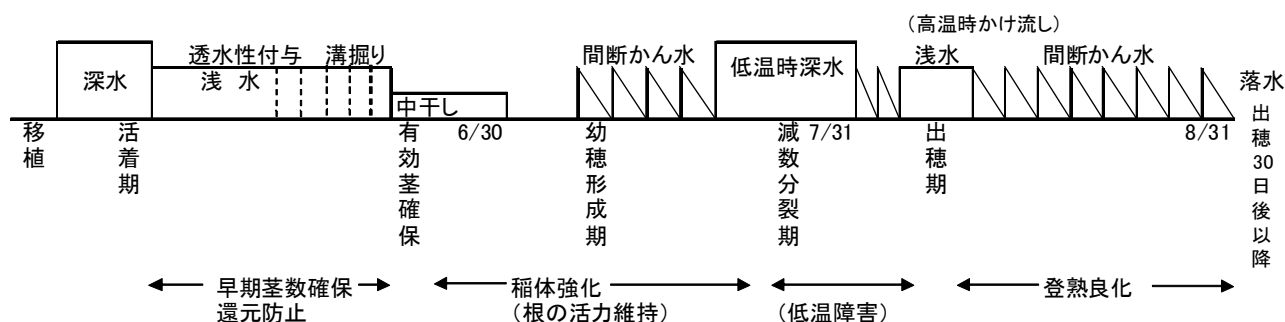
○ 登熟初期

間断かん水を基本としますが、気温が30℃以上になる場合は、かけ流しを行い地温を下げ、根の機能低下を防ぎます。かけ流しかん水が困難な地域では、落水期間の短い間断かん水や午前にかん水を行うなど、土壌水分の供給と地温の低下を図ります。

フェーン現象等で乾燥した風が強い日は、湛水状態を保ち、稲体の保護に努めましょう。

<水不足等で用水の確保が難しい場合>

- ・溝切り跡への通水等により、土壌水分の供給と、夜間の地温低下を図ります。ただし、穂揃期の前後は稲の吸水量が大きいため、かん水不足で稲が萎れないよう注意しましょう。
- ・用水が地域全体に行き渡るよう、こまめな水回りを行い、ほ場全体に水が行き渡ったら速やかに水口を止めます。また、漏水がないよう畦畔の補修に努めましょう。
- ・地域農家や関係機関と協力して節水管理に努め、入水時間を申し合わせるなど、計画的な用水の供給に努めましょう。



2 斑点米カメムシ対策

県病害虫防除所が実施した調査では、畦畔の**アカスジカスミカメのすくい取り数は平年並**となっています。畦畔などに出穂しているイネ科雑草があるほ場を中心に、斑点米カメムシ類の**発生量が多くなる**と予想されています。2回の薬剤防除を基本に、畦畔及び水田内の雑草管理には万全を期してください。



【アカスジカスミカメ】



【アカヒゲホシドリカスミカメ】

<今後の防除対策>

①畦畔除草の徹底

アカスジカスミカメはイネ科雑草の穂に飛んできて産卵し、増殖します。1回目薬剤散布（出穂期10日後頃）の7日後までに畦畔・農道の草刈を行い、発生源を絶ちましょう。

②適期薬剤散布

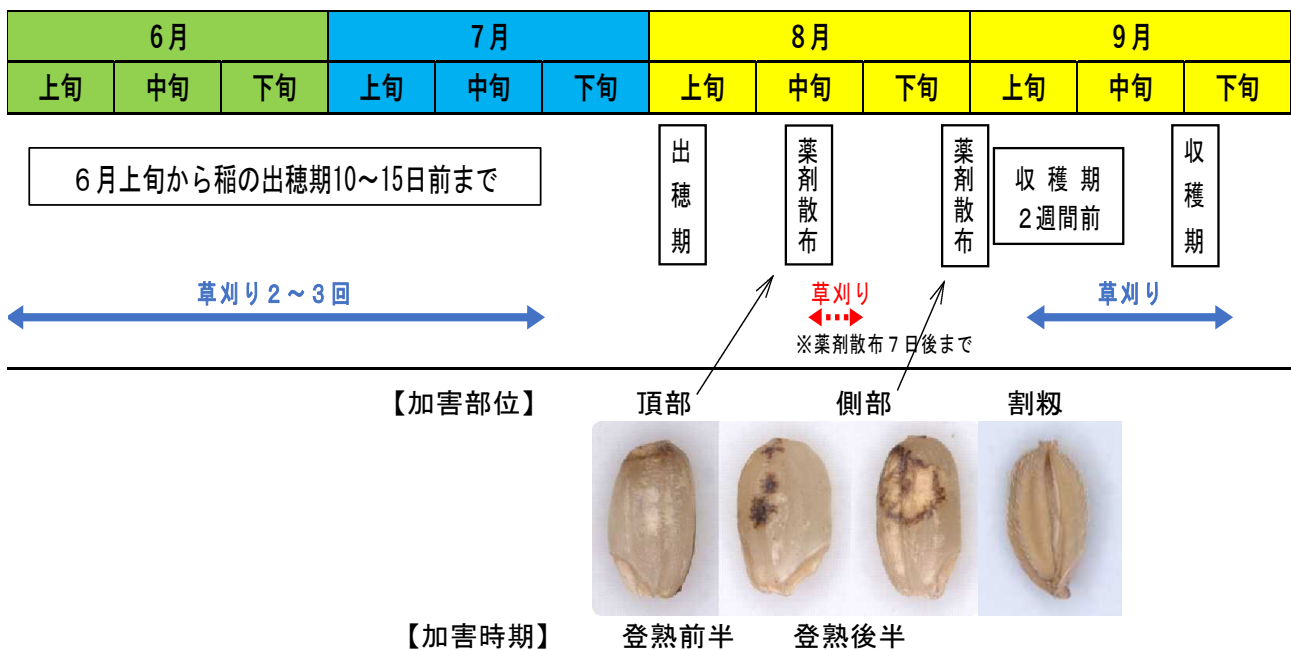
- ・ 1回目茎葉散布剤：出穂期10日後頃

スタークル粉剤DL・液剤、アルバリン粉剤DL

- ・ 2回目茎葉散布剤：出穂期24日後頃

キラップ粉剤DL・フロアブル、エクシード粉剤DL・フロアブル

※エクシード剤は、ウンカ類にも効果が高い。



【向こう1か月の天候の見通し（7月25日～8月24日）】：仙台管区气象台、7月23日発表

気温が高くなる見込みです。平年と同様に晴れの日が多く、平均気温は高い確率が50%、降水量はほぼ平年並、日照時間もほぼ平年並の見込みです。

- 1週目（7/25～7/31）：気温は、平年並の確率が50%です。
- 2週目（8/1～8/7）：気温は、高い確率が60%です。
- 3～4週目（8/8～8/21）：気温は、高い確率が50%です。



○秋田県農薬危害防止運動実施中！

「使用前、周囲よく見て ラベル見て」

○農作業事故・熱中症に注意！

今年も暑い夏が予想されます！

農作業中はこまめに水分・塩分を補給するなど、熱中症には十分に注意してください。

次号の発行は8月下旬の予定です。